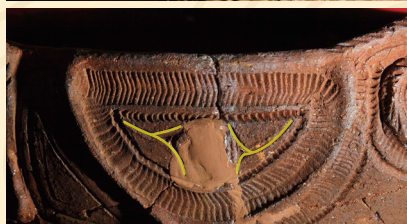


縄文土器の
デザインいろいろ

沈線文・縄文



渦巻文・蕨手文



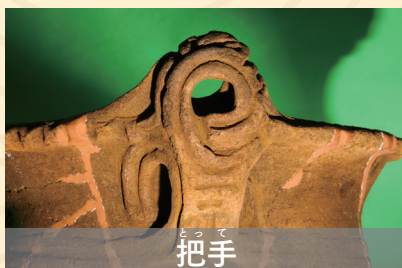
三叉文



鍋や水がめなどの容器として使ったり、時にはお墓の中に埋葬されることもあった縄文土器。その表面を見ると、縄を転がしたり、指や爪、貝、竹棒などで溝をつけたり、さまざまな方法で文様が描かれています。ヘビや鳥、ヒトの姿、見方によっては宇宙や神話を表現したのではと思えるようなものもあり、人々が祈りや思いをこめて土器を作ったことが感じられます。



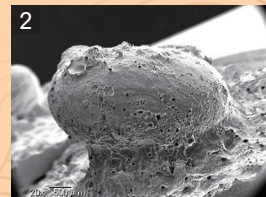
粘土ひも貼り付け



把手

土器からわかる
縄文グルメ

土器に付着していたおこげを分析すると、当時の人々がユリ根やノビルなどの山菜や海産物を煮炊きしていたことがわかってきました。また、別の土器にあるくぼみからは、マメ科植物の痕が見つかり、当時の人々がアズキやダイズなどを食べていたと考えられています。



1 マメ類の痕がある土器

2 顕微鏡で見たマメ類の痕



©T&K/西東京市

土器にも
流行が
あった！

縄文土器にも、時代によってその形や特徴に流行がありました。下野谷遺跡では主に右記の土器が出土しています。

01

勝坂式土器



縄文時代中期中葉（約5000～4500年前）に作られていた土器の型式。同じ模様が繰り返されることがなく、器全体に粘土ひもを貼り付けたりして、立体的にダイナミックな造形で表現する。

02

加曾利E式土器



縄文時代中期後葉（約4500～4000年前）に作られていた土器の型式。渦巻きやだ円など、均整のとれた文様が連続して施されており、胴の部分がゆるやかにくびれているものが代表的。

03

連弧文系土器



縄文時代中期後葉（約4500～4000年前）に作られていた土器の型式。主に武蔵野台地や多摩丘陵、南・西関東を中心に分布し、弓なりに連なる弧の文様（連弧文）が特徴。

土器からわかる
縄文時代の交易

下野谷遺跡では、関東で多く出土する土器の特徴と、他の地域で出土する土器の特徴をあわせもつものが出土しており、縄文時代から他の地域と交易を行っていたことがうかがえます。中には、甲信越や東北地方の特徴を持つ土器も出土しています。

甲信越地方を
中心に分布する
「曾利式」の
特徴南関東を
中心に分布する
「連弧文系」の
特徴土器をじっくり
見てみよう！

デジタルアーカイブから3Dの高精細画像で土器を見ることができます。



東伏見の駅前で待ってるよ！

ボタンを押すと、遺跡についての解説を聞くことができます。



下野谷遺跡

東伏見にある南関東最大級の縄文時代中期の集落遺跡。石神井川を北に望む高台にある東西2つの集落からは、大量の土器や石器などが出土しています。

郷土資料室

下野谷遺跡から出土した石器・土器、くらしの民具の今・昔、市の歴史などに関する郷土資料を5つの展示室で公開しています。



特別展 「史跡下野谷遺跡 誕生からの10年」

12月6日(土)～令和8年3月1日(日) 午前10時～午後5時

郷土資料室(西原町4-5-6 西原総合教育施設内) ※月・火休室 ※入場無料

郷土資料室 ☎042-467-1183



「西東京市からのお知らせ」FM西東京(84.2MHz)

①午後0時45分～1時(月)～(日) ②午後8時～8時15分(月)～(金)

音声版「声の広報」も
作成しています「広報西東京」をデジ版・CD版でお聞かせになれます。
詳細は、谷戸図書館 ☎042-421-4545へお問い合わせください。公式
LINEそのほか
公式SNS

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。